



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

佐賀大学交流事業特別展の開場式が行われました

10月25日(金)、小城市歴史資料館で佐賀大学こだま児玉ひろあき浩明学長、江里口市長、小城市議会中島議長、大野教育長出席で交流事業特別展のテープカットを行いました。



◀テープカットの様子

関連記念講演会

『「桜岡」という文化装置—京の雅を肥前の小城に—』

- ◆講師 なかおゆかり 中尾友香梨さん (佐賀大学全学教育機構准教授)
- ◆日時 12月7日(土) 14時~15時30分
- ◆場所 歴史資料館 研修室 ◆観覧料 無料

「土生遺跡公園まつり」を開催しました

10月19日(土)、「土生遺跡公園まつり」を悪天候のため小城文化センターで開催しました。市内の小学生29人と保護者が参加し、火おこしや古代の食べ物など、古代の生活の体験を楽しみながら学習しました。



▲火おこしを体験する子どもたち

おぎの歴史探検隊

地中に眠る太古のロマン〈その2〉 歴史を変える発見が目白押し！

「ここは弥生時代の遺跡ではないのか!? 現代的すぎる」。つい最近埋まったようなきれいな状態で出土した木製品を見た発掘調査の担当者は、そう思いました。

しかし、時代の決め手となる土器は弥生時代中期のものしか確認されていません。

土器や石器と違い木材や木製品は、濡れや乾燥を繰り返すとすぐにボロボロに朽ちてしまいます。幸運にも土生遺跡では、水分の多い土の中で真空パックされた状態で2000年以上の間、良好に保存されていたため「本当に弥生時代のものなのか？」と目を疑うとともに、土生遺跡の人たちの生活水準の高さに驚愕しました。

それまで国内での農耕具の出土は、弥生時代後期のものが圧倒的に多く、後期になってから農業生産

が安定化したと考えられていました。土生遺跡の木製農耕具の出土は定説を1世紀以上もさかのぼることを示す貴重な成果となりました。

また、建物の柱の下に礎板を敷くといった基礎工事も、奈良時代頃に始まったと考えられていたため、これまでの建築史を塗り替える大発見となりました。

その後も土生遺跡では発掘調査が実施され、さまざまな発見がありました。最終回では数々の新発見から見てきた土生遺跡の驚くべき内容を見てみましょう。(続) 小城市郷土史研究会/著

出土した木製農耕具▶



❖開館時間 9時~17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課 (桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132